

米澤 健一郎氏

#122

ソニー学園 理事長



企業人からソニー学園湘北短期大学の学長へ転身して1年が経ちました。短大がまさに厳しい競争の中で苦闘している状態は想像以上でした。この10年間に全国の短大が600校から470校へ、学生数22万人から9万人へと激減しています。私立の短期大学は一般的にその収入の8割は学生からの授業料などの学納金で構成されています。学生数が減少すれば直ちに収入が激減する一方で、支出を減らすことは非常に難し

紹介者



河野 栄子氏
リクルート 特別顧問

い構造になっています。より魅力的でより競争力のある短大にするためには、第一にはなんといっても学生が魅力と効果を感じてもらう。二つには学生が納得する企業への就職。三番目は授業や就職について高校生と高校の先生、保護者に対する広報活動です。日本の教育機関では教職員個人は大いに努力をしているのですが、その個人を組織的に支援し、組織として最大効率、最大効果を達成するための仕組み作りが課題です。私は、井深さん、盛田さんや大賀さんといったユニークな経営者をいたいたいソニーで40年間仕事をしてきました。短大でも、ソニー流の「人のやらないことをやるう」とにかくやってみよう」「失敗しても学ぶものはある」でやってみようとして、教職員から何度か「戸惑いを感じる」と言われ、不評を買いました。それにもめげずに、4月には新入学生を対象に「変人のすすめ」のタイトルでの学長講義をしました。ソニーの人たちがいかに『常識的』ではなかったかを例に出して「これからの変化の時代を生きていくには『変人』になる覚悟が必要

次回

加賀山進氏

(エヌ・ティ・ティ・データ・ジェットロニクス 取締役社長)

にご登場いただきます。

変人のすすめ

だ」と説いたわけです。学生の反応は「自分は今までいかに他人と合わせようとしていたか。大いに反省しています。これからは変人を目指して頑張ります」というものから、「私は変人にはなりたくありません」というものまでいろいろでした。ただこの講義は教職員にはあまり評判が良くありませんでした。「学長！これ以上変な学生を作ってもらっては困ります!!」新しい体験の連続で、この歳にして大げさに言えばいまだ興奮の渦中にあります。